

平成25年度 高山市政クラブ行政視察報告書

1. 視察日

平成25年10月9日（水）

2. 視察先

大阪府高槻市 高槻市役所

3. 視察項目

「いじめ通報システム」について

4. 視察の目的

「はにたんの子どもいじめ110番」の取り組み

5. 視察内容

ア. 概要

高槻市では、平成24年2月に「子ども議会」が初めて開催され、その中で「いじめをすぐに相談できる場所を設置してほしい」との要望がだされた。

これを受け、市教育委員会がインターネットサイトを利用した、いじめ通報システム「はにたんの子どもいじめ110番」が5月末に開設された。又、同サイトの「QRコード」を印刷したカードを市立小中学校に通う児童・生徒2万9千人に配布し、周知した。

本サイトは、いじめの早期発見につなげ、いじめで悩んでいる友達を見たときや、いじめで困っている子どもやその保護者が手軽に相談できる総合窓口となっている。

「はにたんの子どもいじめ110番」／高槻市ホームページ

① いじめの発見に協力します。

自分のクラスや学校でいじめを見た人は、発見にご協力下さい。

② 子どもの相談

今、いじめを受けている人の相談窓口です。

③ 保護者の相談

子どもさんのいじめやその解決方法等に困っている方の相談窓口です。

イ. 効果

平成24年度は、いじめの相談件数は増えているが、解決率98%となっている。

相談件数は、平成25年9月末までで203件。内訳としては、電話（155件）来訪（26件）学校から（32件）教育いじめ（19件）となっている。

相談の内容からは、小学校では4～6年生がピークで女子が多く、加害者は5人以上が多い。中学校は1年生がピークであった。

時期的には夏休み前や9～10月運動会・文化祭の期間に相談が多発している。

対応については相談件数の多い順から取り組んだ。

各学校ではいじめに関するアンケート調査を行い（毎週調査の学校もあり）市内を

3 地区に分けて先生同士のアンケート交流の実施し、初期の解決に努めている。

また、子供達もいじめについて考えてもらう様、学校指導の中で行っている。

・「はにたんの子どもいじめ110番」アクセス実績（6月～9月）1,500件

ウ. 課題

担当としては認知度が低いと感じており周知方法が検討課題。

（広報誌・カード配布・ポスターによる広報は実施した。）

アクセス数1,500件が多いのか少ないかは疑問が残る。

（本当にいじめ相談によるアクセスなのかわからない点について）

5. 考察

本対応システムにより、アンケート以外での発見に努め、学校や保護者に直接相談できない難しい環境や問題の初期段階での対応を整え、いじめの未然防止と早期解決を図っている。

平成25年度 高山市政クラブ行政視察報告書

1. 視察日

平成25年10月10日（木）

2. 視察先

奈良県生駒市 生駒市役所

3. 視察項目

「いこま節電チャレンジ」について

4. 視察の目的

省エネ家電買い替え補助制度、市民節電グランプリの実施状況調査

5. 視察内容

ア. 概要

平成20年に生駒市環境基本計画推進会議（ECO-net生駒）を市民・事業者・行政が協働してに設立。

生駒市環境基本計画の概要は総合ビジョン（豊かな自然と歴史と未来が融合したまち生駒）と分野別ビジョン（18のプロジェクト）に分かれており、①自然環境、②生活環境、③まち・みち環境、④エネルギー環境分野の4つに分け、平成30年度目標でCO2排出量14%削減、河川水質BOD5mg/L以下とし、この中で節電にも取り組むこととした。

①市の平成25年度夏場の節電対策

夏季休暇一斉取得（8月19～20日市民課以外）、昼休み休憩時間の変更（7月1日～9月30日 13時から14時に）、自動販売機の撤去、スーパークールビズ（7月1日～9月30日）、電力使用量の見える化（ロビーに表示）、市民プール・ふれあいセンター浴場無料開放。

省エネ家電買い替え補助制度（予算600万円、エアコン1万円、冷蔵庫1万円、LEDライト5千円）、市民節電グランプリ（予算90万円）など。

②省エネ家電買替補助制度

生駒市内に居住する個人で居住する住宅において補助対象製品に買替えした場合に補助するもの。世帯単位で期間内に1種類につき1回1台まで。エアコン、冷蔵庫は統一省エネラベル3つ星以上。LEDは自動調光機能付。販売は市内店舗の募集（大型店も含めて29店舗が登録）。市民が申請し市が決定、市民が登録店で購入、登録店より市に金額請求し市が登録店に補助金交付。

③市民節電グランプリ

平成24年度8月の電気使用量と比べて、一人1日あたりの電気使用量の削減率が高かった世帯を選定し賞金や賞品を授与。1～10位は2万円＋共通乗車券1万円、11～20位は1万円＋共通乗車券1万円、200位で共通乗車券1000円まで。

イ. 効果

平成25年度の補助申請実績は、エアコン249件、冷蔵庫223件、LED170件、計642で補助合計557万円。年間節電量179,880kWh。買い替えにより市内で約5000万円の経済効果。市民節電グランプリの実施結果は213件の申込。実績提出件数106件で最高節電率48・8%。総削減電力使用量は4,130kWhとなった。

ウ. 課題

猛暑の中、家庭での節電に行き過ぎがみられ健康面の影響が懸念される。関電との関係もある。

6. 考察

生駒市は京都、大阪のベッドタウンで人口も伸びている。防犯灯1万基を市の施設として2億5千万でLEDに切替えた。市民と協働しての実施が良い。

平成25年度 高山市政クラブ行政視察報告書

1. 視察日

平成25年10月11日（金）

2. 視察先

愛知県蒲郡市 蒲郡市役所

3. 視察項目

蒲郡市観光ビジョンとアクションプランについて

4. 視察の目的

市民と産・官が一体となっている新観光産業の振興についての調査

5. 視察内容

ア、概要

蒲郡市では、観光業界のみならず蒲郡全体としての取組により、魅力ある「まちづくり・まち育て」が出来ないかという事で、平成15年10月に市全体構想の中から蒲郡市観光ビジョン委員会を立ち上げ平成16年12月に「蒲郡市観光ビジョン」を策定した。

- ① 観光交流ウィーク、おもてなしコンシェルジュ、新たなマーケットへのPRなど、様々な活動を実践している。
- ② 観光を取り巻く環境変化は著しく、多様化する観光ニーズ、観光産業の形態変化への対応をして行くために、平成22年3月に「改定＝蒲郡観光ビジョン」を作成した。
- ③ 平成24年度以降に実施することが望まれる事業の案・関係主体及び期間について取りまとめを行い「蒲郡市観光ビジョンアクションプラン」を作成してきた。
- ④ 南に海を面し三方を山に囲まれた風光明媚、気温温暖、自然の恵み豊かな理想蒲郡の魅力を市内外に伝え、多くの人たちが交流しあえる場所として、市の玄関口にあたる蒲郡駅北口の高架下に観光交流拠点となる「ナビテラス（蒲郡観光交流センター）」を平成25年3月に開設した。

面積430㎡ 事業費1億9千万円

- ・観光客にとっては、旅への期待感が高揚される。
- ・誰でもぶらりと自由に立ち寄り、気軽に訪れ楽しく利用が出来る。
- ・観光情報だけでなく、市内のイベント情報や物産情報、お得な情報も得られる。

イ、効果

蒲郡市の観光客数は、平成15年の816万人をピークに減少し平成23年は628万人まで減った。また宿泊者数もピーク時の65%まで減少した。

しかし、観光ビジョンやアクションプランに基づき市民や産・官が一体となった各種事業（特におかみさん会、食材、名産品づくり）により平成24年は回復

傾向に向かっている。

毎年3月17日を「蒲郡観光交流市の日」とし市民全体が一体となって、市内外からみえる大人・子供に至る観光客におもてなしの実践が出来ている。

ウ、課題

ナビテラスは開設されたばかりであり、その効果はまだ出ていない。

各観光市施設とイベント、ボランティア育成が一体化されていない。

温泉も大きな観光資源であるが、西浦温泉・形原温泉・三谷温泉を蒲郡温泉郷として、もっと大々的に売り出せば効果は更に大きくなると思う。

6、参考

蒲郡市の全市一体となった観光ビジョン、アクションプランと観光交流センターの今後の動向について高山市としても注目したい。特に高山駅の新駅舎、観光案内所のあり方は蒲郡市同様重要なポイントになると思われる。

高山市と蒲郡市は観光交流意見交換会を開催し、両市が持つ海の幸、山の幸の観光資源を補完し更に連携を図っていくことが出来、海外からの観光客の広域観光地まわりを企画商品化して両市の魅力をPRし進めていく事が出来る。